

# 平成23年度 猪名川町・中学校 学習到達度調査の結果について

猪名川町教育委員会学校教育課

## ■調査目的

- 猪名川町の中学校生徒の学習状況を調査し、領域、観点、基礎・活用およびごとにその結果を示すことにより、学習指導上の問題点および改善点を明らかにする。

## ■調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

## ■調査対象

- 町内の公立中学校第2学年の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

## ■調査日

- 平成23年4月19日（火）

## ■調査結果

### 【中学校の調査結果】

		調査結果（町）	期待正答率	全国平均
中学校 第2学年	国語	73.2	71.1	69.8
	数学	70.2	64.6	61.3
	英語[B]	79.4	71.4	74.1

## ■中学校第2学年【国語】

### (1) 国語の正答率

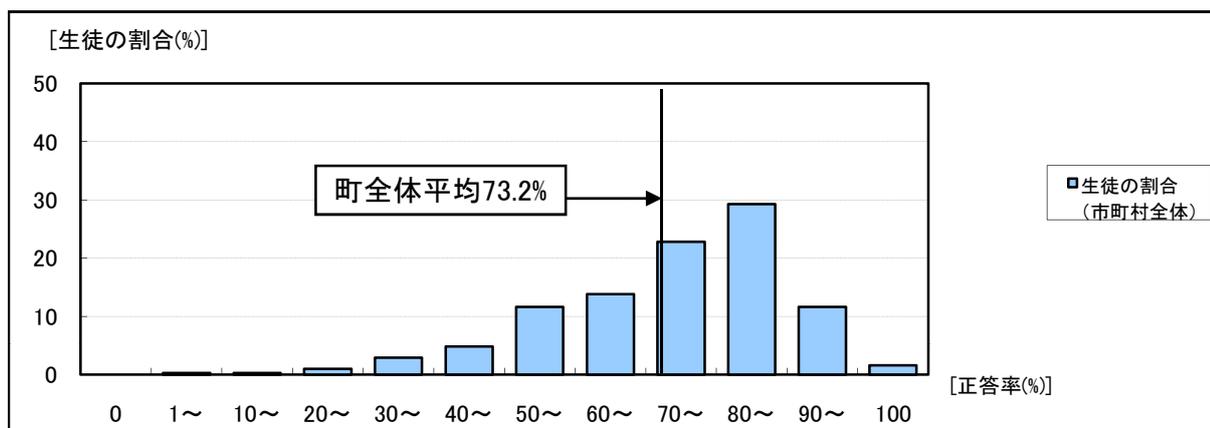
期待正答率	町全体
71.1%	73.2%

\*中2国語の町全体の正答率は73.2%で、期待正答率を2.1ポイント上回っている。

正答率度数分布

町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の割合 (市町村全体)	0.0	0.3	0.3	1.0	2.9	4.8	11.6	13.8	22.8	29.3	11.6	1.6

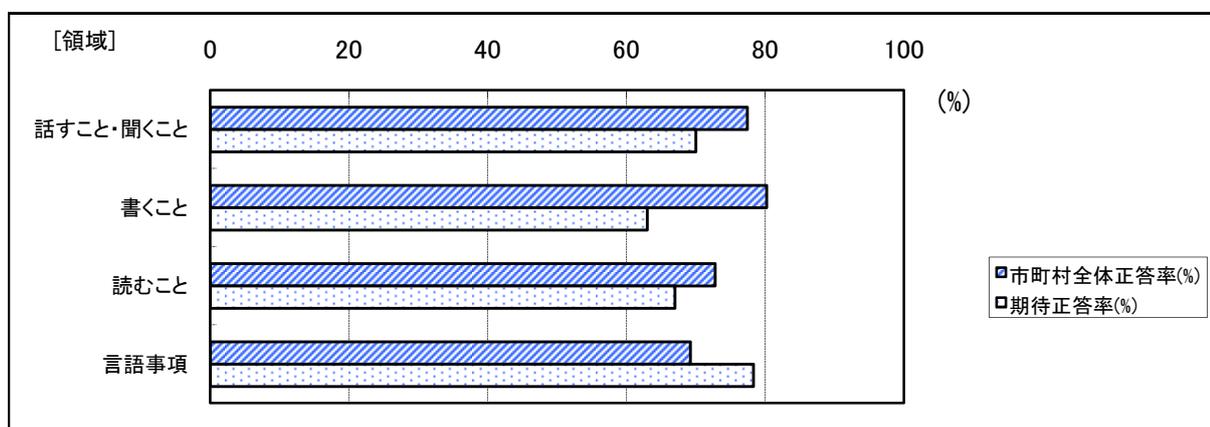


\*町全体では、正答率80%以上の生徒が42.5%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が9.3%存在する。

### (2) 領域別正答率

町内全体

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
市町村全体正答率(%)	77.4	80.2	72.8	69.2
期待正答率(%)	70.0	63.0	67.0	78.3
期待正答率との差	7.4	17.2	5.8	▲9.1



## ①話すこと・聞くこと

期待正答率70.0%に対して正答率は77.4%で、7.4ポイント上回っている。

話すこと・聞くことの領域では、大問1で出題され、小問(1)(3)の話の内容を正確に聞き取る問題、話し合いの進め方の工夫を聞き取る問題の正答率は、期待正答率を10ポイント以上上回った。しかし、大問1(4)の話題をとらえて自分の考えをまとめる記述問題では、期待正答率を1.8ポイント下回った。司会者の立場を踏まえ、意見に対して反論しているものが26.0%誤答として見られた。また、注意の内容が曖昧なものや丁寧な言葉遣いをしていないものが23.2%準正答となった。話し合いに主体的に参加させるためには、話し合いの流れを追うだけでなく、何についての話し合いなのかをしっかりと把握させることが必要になる。そのためにも、効果的なメモの取り方を指導していくことが大切である。

## ②書くこと

期待正答率63.0%に対して正答率は80.2%で、17.2ポイントと大きく上回っている。

書くことの領域では、大問8の作文の問題が出題された。三段落構成、字数制限、第一段落に「共通点」、第二・三段落に「違う点」が書かれているか、などの条件が設定されていたが、すべての条件項目の正答率が期待正答率を大きく上回り、良好な結果であった。ただし、原稿用紙の使い方を間違えているものや、「違う点」について一方の特徴しか書いていないもの、きちんと両者を対比して書いていないものが20%以上見られた。日頃から、自分の考えを200字程度でまとめる練習を積ませることと、同時に原稿用紙の使い方にも習熟させていくことが大切である。

## ③読むこと

期待正答率67.0%に対して正答率は72.3%で、5.8ポイント上回っている。

読むことの領域では、大問5・6・7の説明文、文学作品、新聞記事を読み取る問題であった。文学作品の読み取りでは、すべての小問で期待正答率を上回り、良好な結果であった。しかし、説明文の展開を正確にとらえる問題や、新聞記事の見出しを作る記述問題では、期待正答率を若干下回った。新聞記事の読み取りでは、誰が、いつ、どこで、どうしたかを押さえ、記事の中でどこを強調しているかを明らかにしながら読み取っていくことが大切である。

## ④言語事項

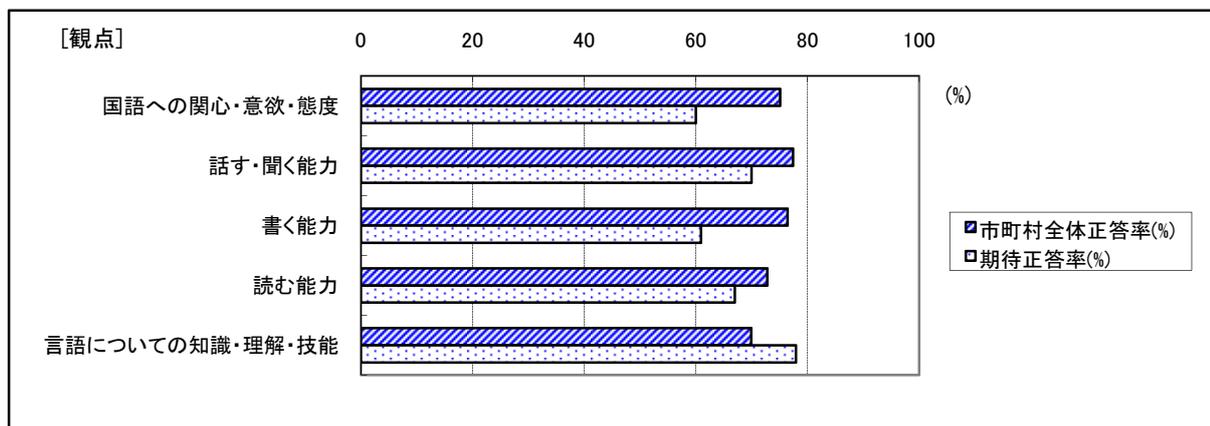
期待正答率78.3%に対して正答率は69.2%で、9.1ポイント下回っている。

大問3・4の文法・語句に関する知識の問題のすべての小問の正答率が、期待正答率を下回った。特に、被修飾語を選ぶ問題と単語の類別の問題において、正答率は50%台となり、期待正答率を20ポイント以上下回った。文法の指導にあたっては、まず文の成分を確認することが必要である。文を文節に分けたのち、単語に分けながら、それぞれの単語の性質や修飾の関係について理解させることが大切である。

### (3) 観点別正答率

町内全体

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
市町村全体正答率(%)	75.1	77.4	76.4	72.8	69.9
期待正答率(%)	60.0	70.0	60.9	67.0	77.9
期待正答率との差	15.1	7.4	15.5	5.8	▲8.0



#### ①国語への関心・意欲・態度

期待正答率60.0%に対して正答率75.1%で、15.1ポイント上回っている。

この観点として、大問1(4)の記述問題と大問8の作文を設定した。作文の正答率は70%を超え、無解答率も3.9%と低く、問題に対して意欲的に取り組もうとした姿勢がうかがえる。ただし、聞き取り問題の記述では、正答率が48.2%と低く、期待正答率を若干下回っている。書く活動は、作文だけにとどまらず、話すこと、聞くこと、読むこと、言語事項などさまざまな分野で、取り入れていくことが必要である。

#### ②話す・聞く能力

期待正答率70.0%に対して正答率77.4%で、7.4ポイント上回っている。

聞き取り問題では、話し合いの流れを追いながらメモを取ることと、何についての話し合いなのかをしっかりと理解しながら聞き取ることが必要である。話し合いを充実させるには、日頃から生徒が話し合う機会を多く設定し、さまざまな形式での話し合いの経験を積ませることが大切である。さらに、発言者の内容を生徒に説明させるなどして、情報の分類をしながら聞く態度を養いたい。

#### ③書く能力

期待正答率60.9%に対して正答率76.4%で、15.5ポイント上回っている。

基本的な作文の書き方については、よく理解できているようである。作文の内容を充実させるには、文章を書く目的をはっきりさせ、伝えたい事柄を明確にして書くことと、誰が読むのかという相手意識をもたせることが必要である。日頃から、相手意識、目的意識をより明確にした書く活動に取り組ませることで、書く力の向上を図りたい。

#### ④読む能力

期待正答率67.0%に対して正答率72.8%で、5.8ポイント上回っている。

文学作品、説明文のいずれにおいても、まず重要なのは文章を丁寧に読み、内容を正確に押さえることである。読み取ったことをもとに話し合いを行い、読みを深めたり広げたりする中で、読み取りの力を付けていきたい。また、課題を設定して、課題解決に向けて模索しながら読ませるなど、必然性のある読解の場を意図的につくることも重要である。新聞記事の読み取りにおいては、ある条件のもとに情報を整理したり、あるいは自分なりの目的をもって情報を整理したりするなど、さまざまな学習を意識した課題を設定していくことが大切である。

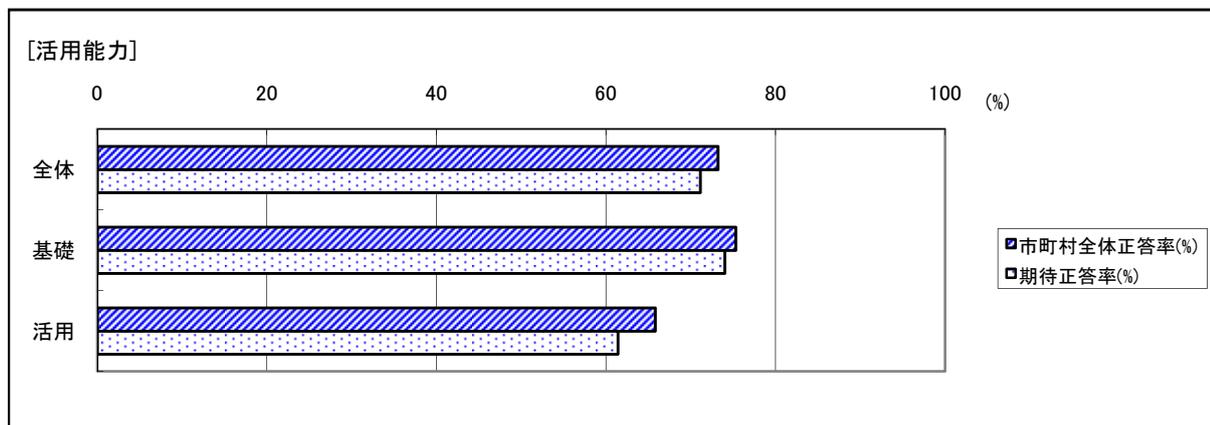
#### ⑤言語についての知識・理解・技能

期待正答率77.9%に対して正答率69.9%で、8.0ポイント下回っている。

漢字については、書き問題4問中3問の正答率が期待正答率を10ポイント以上下回り、特に、「複雑」を書く問題では正答率が45.0%であった。また、漢字の部首を問う問題においても、期待正答率を20ポイント近く下回った。漢字の読み書きは、問題によって正答率のばらつきが大きい。同音異字、同訓異字をはじめとして、形の似たもの、使い方が紛らわしいものなどを取り上げて、一度きちんと整理しておくことが必要である。漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことが重要である。漢語の熟語などを、文脈に即して用いることができるよう、授業において、意図的に取り上げるなどの、工夫をしながら学習させることが大切である。

#### (4) 基礎・活用別正答率

	町内全体		
	全体	基礎	活用
市町村全体正答率(%)	73.2	75.3	65.8
期待正答率(%)	71.1	74.0	61.4
期待正答率との差	2.1	1.3	4.4



\*基礎・活用別にみると、基礎は期待正答率を1.3ポイント、活用は期待正答率を4.4ポイント上回り、良好な結果であった。

## ■中学校第2学年【数学】

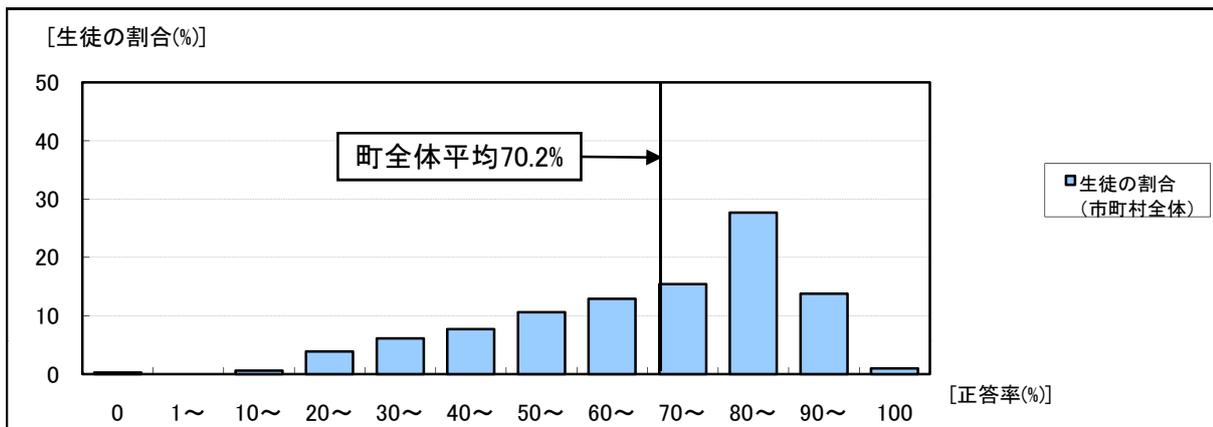
### (1) 数学の正答率

期待正答率	町全体
64.6%	70.2%

\*中2数学の町全体の正答率は70.2%で、期待正答率を5.6ポイント上回っている。

正答率度数分布

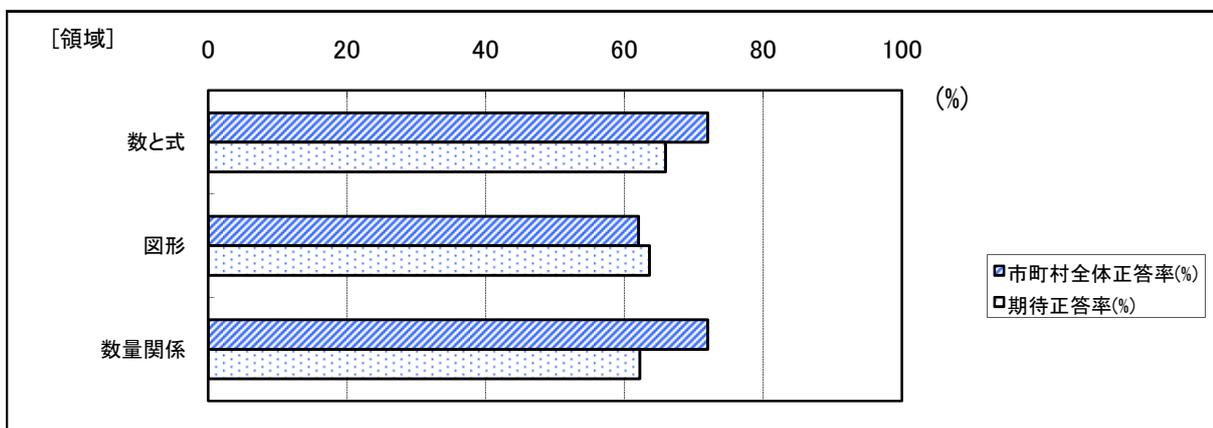
正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の割合 (市町村全体)	0.3	0.0	0.6	3.9	6.1	7.7	10.6	12.9	15.4	27.7	13.8	1.0



\*町全体では、正答率80%以上の生徒が41.5%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が18.6%存在する。

### (2) 領域別正答率

	数と式	図形	数量関係	町内全体
市町村全体正答率(%)	72.0	62.0	72.0	
期待正答率(%)	65.9	63.6	62.2	
期待正答率との差	6.1	▲1.6	9.8	



### ①数と式

期待正答率65.9%に対して正答率は72.0%で、6.1ポイント上回っている。22問中18問が期待正答率を上回り、その中の15問は期待正答率を5ポイント以上上回った。

文字式は、数や図形の性質が成り立つことを説明したり、二次方程式を解いたりする場合に用いられる。これらの公式を使いこなし、目的に応じて式を変形して式の意味を読み取ったり、文字式を用いて数量の関係を自ら説明しようとしたりする態度を伸ばしたい。

### ②図形

期待正答率63.6%に対して正答率は62.0%で、1.6ポイント下回っている。特に、移行単元である球の体積を求める問題で、正答率は22.2%と極めて低く、期待正答率を27.8%下回っている。

球の体積 $=\frac{4}{3}\times\pi r^3$ という公式を再度確認しておく必要がある。単なる公式を覚える指導にとどまらず、円の面積や円錐の体積などの求め方と対比したり関連させたりしながら、知識として理解させるだけでなく、深く考える場面を多く設定することも大切である。

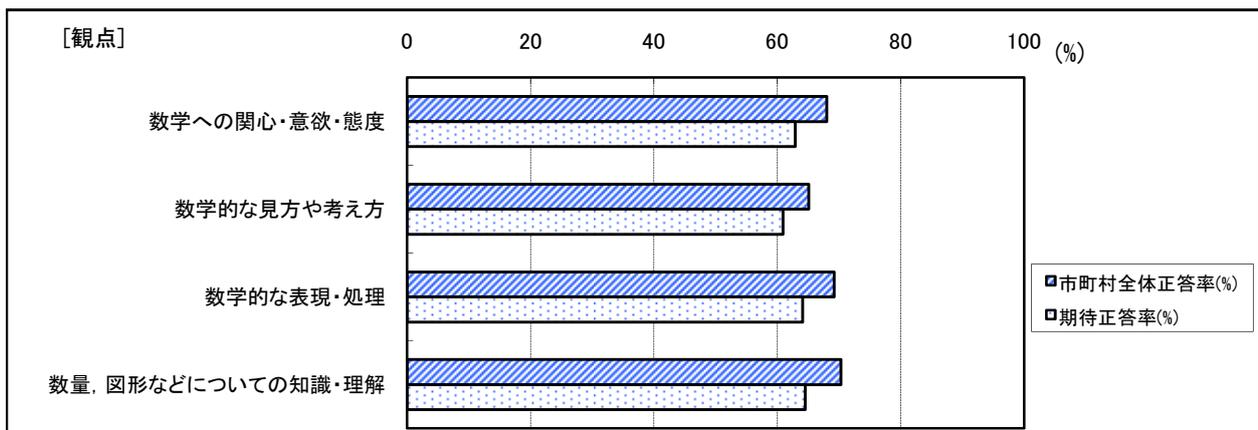
### ③数量関係

期待正答率62.2%に対して正答率は72.0%で、9.8ポイント上回っている。9問中8問が期待正答率を5ポイント以上上回った。

大問16(2)メジアン（中央値）を求める問題では、若干期待正答率を下回り、誤答である選択肢①を選んでいる生徒が30.2%見られた。メジアン、平均値、最頻値の意味をきちんと押さえるとともに、それぞれの値がどのような場面で有効なのか、資料の分布状況と関連づけて指導する必要がある。

### (3) 観点別正答率

	町内全体			
	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量、図形などについての知識・理解
市町村全体正答率(%)	68.0	65.1	69.2	70.3
期待正答率(%)	62.9	60.9	64.1	64.5
期待正答率との差	5.1	4.2	5.1	5.8



## ①数学への関心・意欲・態度

期待正答率62.9%に対して正答率は68.0%で、5.1ポイント上回っている。

方程式の意味を問う問題や、グラフを読み取って説明する問題などが出題されたが、どれも無解答率は10%以下であり、問題に対して意欲的に取り組む姿勢がうかがえる。このような力をさらに伸ばしていくためには、単に計算技能や知識を習得させるだけではなく、生徒一人一人に考えさせ、自分の考えを表現させる場を多く設定することが大切である。

## ②数学的な見方や考え方

期待正答率60.9%に対して正答率は65.1%で、4.2ポイント上回っている。

方程式の $x$ が何を表しているかを問う記述問題は、大問10イで期待正答率を12.6ポイント下回った。方程式については、その解法を理解させるのはもちろん、文章問題において立式する際に、なぜそのような式が成り立つのかを、生徒が説明する機会を取り入れることが大切である。

## ③数学的な表現・処理

期待正答率64.1%に対して正答率は69.2%で、5.1ポイント上回っている。

基本的な正負の数、文字式の計算は期待正答率をほぼ上回っている。しかし、移行問題である大問6の大小関係を不等式で表す問題や、大問8の比例式を解く問題で、正答率はそれぞれ43.1%、51.8%と低く、期待正答率より11.9、18.2ポイントずつ下回った。不等号を使った大小関係や比の関係は、身近な生活の中にも見られるため、具体例を用いて理解させることが大切である。身のまわりにある事柄と数学を結びつけたり、数学的考察ができるような題材を扱ったりする授業展開を心がけたい。

## ④数量、図形などについての知識・理解

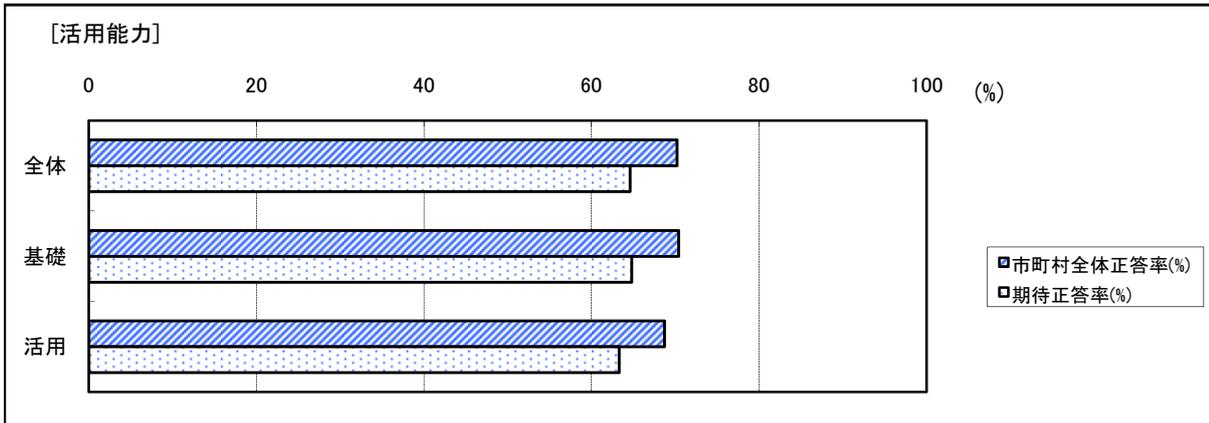
期待正答率64.5%に対して正答率は70.3%で、5.8ポイント上回っている。ただし、大問1(4)の絶対値の理解を問う問題で、期待正答率よりは上回っているものの、正答率は54.0%と低かった。誤答を見ると、0を忘れているものが5.8%、「以下」と「未満」を混同しているものが10.9%あった。

「絶対値」や「～以下」といった用語の意味を確認するとともに、実際に数直線上に絶対値の範囲を書き込ませ、理解を図ることが大切である。

#### (4) 基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村全体正答率(%)	70.2	70.4	68.7
期待正答率(%)	64.6	64.8	63.3
期待正答率との差	5.6	5.6	5.4



\*基礎・活用別にみると、基礎は期待正答率を5.6ポイント、活用は期待正答率を5.4ポイント上回り、良好な結果であった。

## ■中学校第2学年【英語[B]】

### (1) 英語の正答率

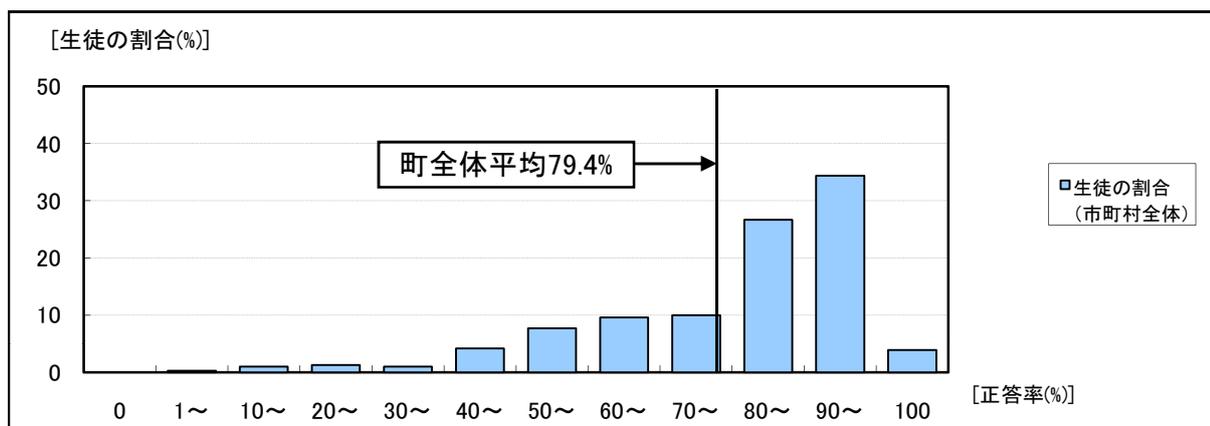
期待正答率	町全体
71.4%	79.4%

\*中2英語の町全体の正答率は79.4%で、期待正答率を8.0ポイント上回っている。

正答率度数分布

町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の割合 (市町村全体)	0.0	0.3	1.0	1.3	1.0	4.2	7.7	9.6	10.0	26.7	34.4	3.9

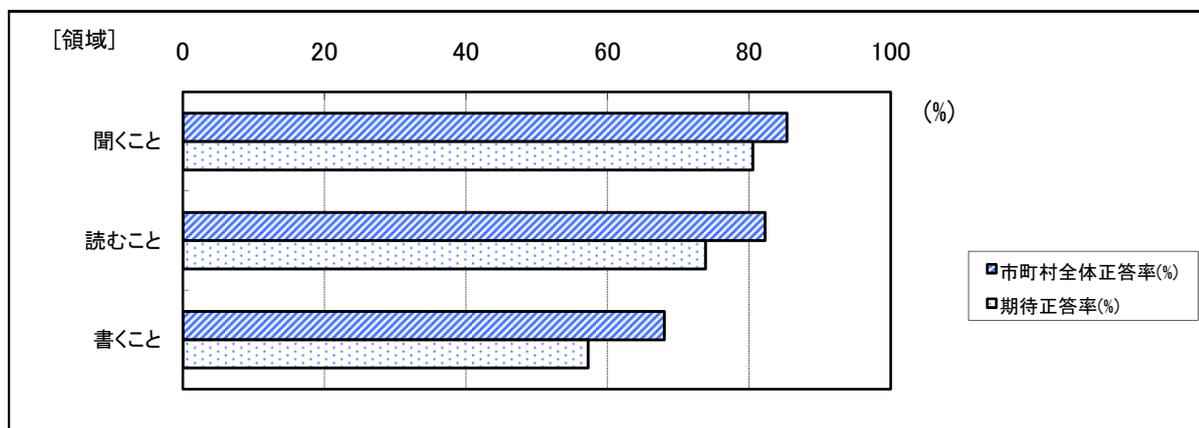


\*町全体では、正答率80%以上の生徒が65.0%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が7.8%存在する。

### (2) 領域別正答率

町内全体

	聞くこと	読むこと	書くこと	
市町村全体正答率(%)	85.3	82.2	68.0	
期待正答率(%)	80.5	73.8	57.2	
期待正答率との差	4.8	8.4	10.8	



### ①聞くこと

期待正答率80.5%に対して正答率は85.3%で、4.8ポイント上回っている。ただし、大問1(2)の現在の時刻を尋ねる問題では、正答が「ten thirty」であるのに対し、「ten thirteen」を選んだ誤答が10.6%あった。

時刻の聞き取りは、日常生活に直結するため重要である。この問題以外にも、「fifty」と「fifteen」など、まぎらわしいものは多数あるので、会話表現などで時刻や年齢などの数字を扱っている場合、できるだけ取り上げるようにしたい。

### ②読むこと

期待正答率73.8%に対して正答率は82.2%で、8.4ポイント上回っている。しかし、大問5(5)の対話文の内容を把握し質問に答える問題では、正答率が50.3%、無解答率が11.6%となっている。誤答は主語をHeではなくIにしたものが3.5%、YesもしくはNoを使って答えたものが5.5%あった。

Yes/Noで答える質問と、Whatなどの疑問詞で始まる質問については、はっきりと区別して答えられるように、授業の中で訓練していきたい。そのためには、教科書の内容についての理解を、簡単な英語の質問を使って確認するとよい。その際に、三単現のsの意識がない場合やつづりの間違いなど、軽微な誤りについても確実に解消していくように、あわせて指導したい。

### ③書くこと

期待正答率57.2%に対して正答率は68.0%で、10.8ポイント上回っている。

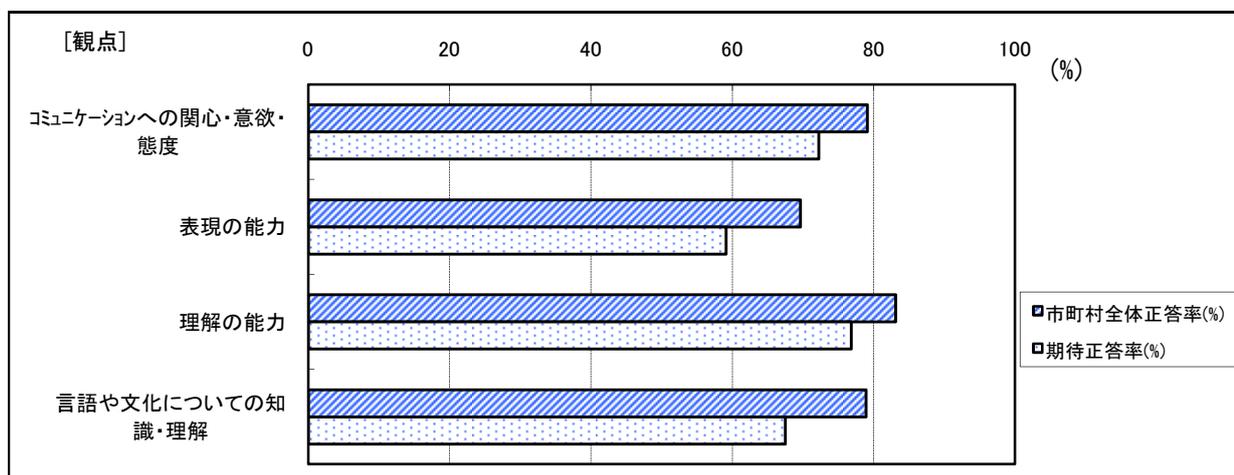
しかし、大問7(3)の整序英作文では、期待正答率を上回っているものの、正答率が59.2%と低くなっている。また、大問8(1)の条件英作文では、正答率が42.4%と低い結果になっている。

大問7(3)は〈S+V+O+副詞句〉の文だが、ある程度決まった形であるので、単語を変更するなどして文を変えてみて、その形ごと覚えさせるようにしたい。また、大問8(1)についても、決まった形の言い回しなので、何度も繰り返し書かせるなどして、確実に定着させたい。

### (3) 観点別正答率

町内全体

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
市町村全体正答率(%)	79.1	69.6	83.1	78.9	
期待正答率(%)	72.2	59.1	76.8	67.5	
期待正答率との差	6.9	10.5	6.3	11.4	



#### ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度

期待正答率72.2%に対して正答率は79.1%で、6.9ポイント上回っている。ただし、大問8の英作文の無解答率がそれぞれ10%以上ある。

疑問文など、決まった形のものは、何度も繰り返し指導することで身につけさせたい。また、授業の中でもなるべく書く機会を増やし、英文に対する抵抗感を払拭しておきたい。

#### ② 表現の能力

期待正答率59.1%に対して正答率は69.6%で、10.5ポイント上回っている。3語以上の英文を書かせる問題で、期待正答率を下回っているものがある。

英文を書くにあたっては、つづり・語順・人称など、注意する点が多い。自分の言葉で文を書いて相手に伝えるためには、正確な表現が欠かせない。注意すべき点を押さえつつ、簡単な文を書かせることから丁寧に指導していきたい。

#### ③ 理解の能力

期待正答率76.8%に対して正答率は83.1%で、6.3ポイント上回っている。ただし、大問3の今後の予定を聞き取る問題については、ともに期待正答率を上回っているものの、50%台と低い。

英文を理解するためには、正確な聞き取りが必要不可欠である。特に、曜日や時間などを正確に聞き取ったり伝えたりすることは、日常生活においても重要である。授業の中で生徒同士の会話場面を増やし、お互いの伝えたいことを正確に聞き取れるようにしたい。

#### ④ 言語や文化についての知識・理解

期待正答率67.5%に対して正答率は78.9%で、11.4ポイント上回っている。

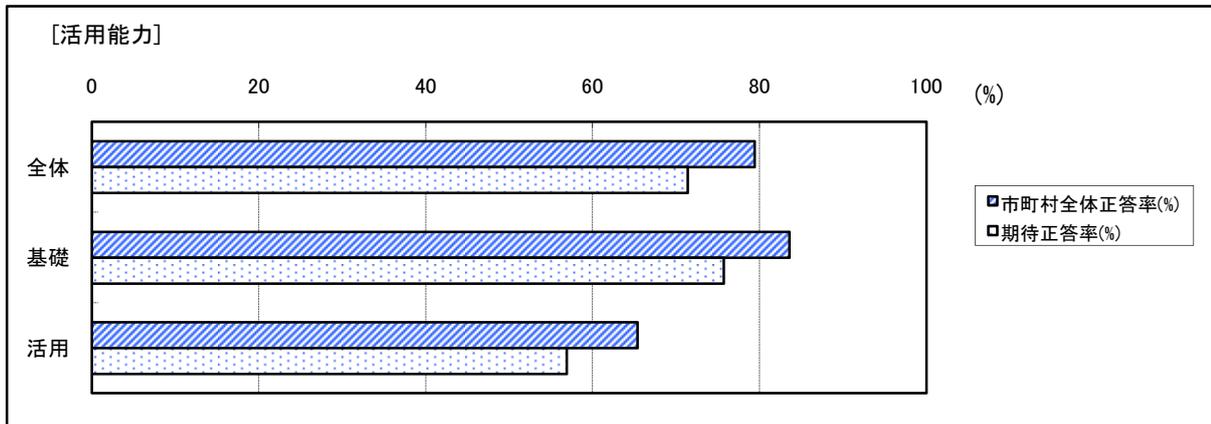
すべての小問で期待正答率を上回っており、大変良好な結果となっている。

慣用表現や疑問文などは、何度も使っていくうちに自然と身についていくものである。ロールプレイングや、授業の冒頭やまとめに音読させたり書かせたりするなどして、今以上にしっかりと定着させたい。

#### (4) 基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村全体正答率(%)	79.4	83.6	65.4
期待正答率(%)	71.4	75.7	56.9
期待正答率との差	8.0	7.9	8.5



\*基礎・活用別にみると、基礎は期待正答率を7.9ポイント、活用は期待正答率を8.5ポイント上回り、良好な結果であった。